











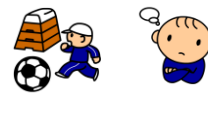








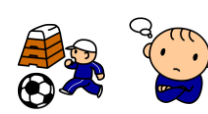
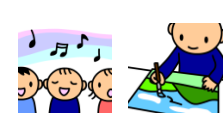



# 1月トリアだより



## 1月の活動



月	火	水	木	金	土
<b>2</b> <b>休み</b> <b>(冬期休暇)</b>	<b>3</b> <b>休み</b> <b>(冬期休暇)</b>	<b>4</b> <b>お正月遊び</b> <b>手指</b> 	<b>5</b> <b>お正月遊び</b> <b>ルール</b> 	<b>6</b> <b>郵便ごっこ</b> <b>運動</b>  <b>スモック</b>	<b>7</b> <b>休み</b>
<b>9</b> <b>休み</b> <b>(成人の日)</b>	<b>10</b> <b>手指</b>  <b>(早降園日)</b>	<b>11</b> <b>感触・ルール</b> 	<b>12</b> <b>運動</b> <b>認知課題</b> 	<b>13</b> <b>音楽・絵画</b>  <b>スモック</b>	<b>14</b> <b>感触</b> 
<b>16</b> <b>屋外・手指</b>  <b>帽子</b>	<b>17</b> <b>感触・ルール</b> 	<b>18</b> <b>運動</b> <b>認知課題</b> 	<b>19</b> <b>音楽・絵画</b>  <b>スモック</b>	<b>20</b> <b>屋外・手指</b>  <b>帽子</b>	<b>21</b> <b>休み</b>
<b>23</b> <b>ルール</b>  <b>(早降園日)</b>	<b>24</b> <b>運動</b> <b>認知課題</b> 	<b>25</b> <b>音楽・誕生会</b> 	<b>26</b> <b>屋外・手指</b>  <b>帽子</b> <b>(避難訓練)</b>	<b>27</b> <b>感触・ルール</b> 	<b>28</b> <b>療育発表会</b> 
<b>30</b> <b>運動</b> <b>認知課題</b> 	<b>31</b> <b>音楽・絵画</b>  <b>スモック</b>	<p>※12月29(木)~1月3日(火)まで冬期休暇とさせていただきます。                      ※感触遊びは、「小豆あそび」の為、スモックは使用しません。</p> 			

※専門職の来所予定日

公認心理師(松本): 20日(金)、21日(土)、30日(月)、31日(火)

言語聴覚士(永山): 10日(火)、11日(水)、12日(木)、13日(金)、25日(水)、27日(金)、28日(土)

理学療法士(樋口): 地域センター、ゆうひが丘



・持ち物全てに記名をし、持たせて下さい。また、記名がない場合は事業所にて記名をさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願い致します。

※当日のキャンセル連絡は、お電話にて9時15分までに連絡をお願い致します。9時15分以降の連絡になりますと、昼食代(264円)が発生します。

・活動時間確保の為、9時50分～10時15分までに登園下さい。10時15分までに登園されない際は、ご連絡させていただきます。

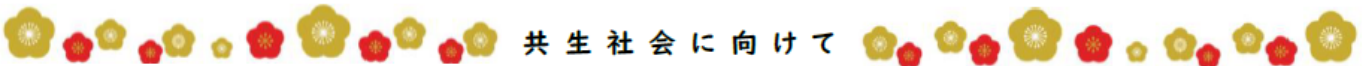
・降園時の引き継ぎを13時50分頃より開始しています。14時までに来所されない場合は、一度ご連絡させていただきます。

・下着(パンツ)の貸し出しがあった際は、未使用の物を返却して頂きますよう、よろしくお願い致します。

・お子様のことで悩み事や困り事等ありましたらご相談下さい。コドモンや交換ノートを必要に応じてご活用下さい。

・トイレトレーニングを行っている方は、トレーニングセット(パンツ、スポン、Tシャツ、肌着、ビニール袋)を袋にまとめて準備をさせていただきますよう、お願い致します。

・着替えた衣類を入れる袋を、必ず持たせて下さい。(スーパーのビニール袋等で構いません。)



## 共生社会に向けて

平成17年に支援費制度となり、同じく発達障害者支援法が施行されました。その後、国連で障害者の権利に関する条約が採択されてからは、障害者に関する法律が毎年改正されて、障害者制度の充実が図られています。平成23年に障害者基本法の改正があり、精神障害に発達障害が含まれました。その後も障害者虐待防止法、障害者差別解消法の施行で合理的配慮が事業者に義務化となり、ますます違いを認め、個性、能力が尊重された共に生きる社会の実現が求められています。

全国で障害者数は約937万人(厚労省H28)です。鹿児島県障害者計画(H30～R4)によると障害者は、約15.8万人(H29)です。鹿児島県において障害者の32%が日々の生活において何らかの差別を感じていると鹿児島県障害者計画には記されています。多様性を尊重し障害の有無や個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生き活躍できる地域社会づくりは、身近な地域における人々の障害者理解が大切です。幼児期・学齢期の小さい時からの人権教育や関係機関での相談支援事業の充実。また、地域・事業所等での障害者理解啓発は、今後も継続的な取り組みが必要と考えます。

この10年あまりの間に、成人期における就労や労働等において、本人や事業所から発達障害に関する相談が増加しています。発達障害に限らず各障害については、書籍やインターネット、TV等で広く一般の方も知る機会が増え、知識も得ることが出来ます。しかし、あふれる情報を得ることでかえって一人一人の理解は、障害理解や行動の問題からの理解で、一人一人の固有の課題は視野に入らず、支援する側の安心材料として「〇〇障害」と、医師だけしか診断できない「障害名」を告げてしまう現状があることを、私は危惧しています。その結果、事業所は仕事の上でミスを繰り返すと当事者への配慮や身近な人への理解啓発を図らず、仲間や上司から当事者へ直接「〇〇障害ではないか」又、「病院へ行き検査してもらいなさい」等、人権に配慮しない言葉が投げかけられ当事者は、出社できなくなり転職や鬱の症状等になり、二次障害を起こしているケースがあります。

各領域の支援関係者は、一人一人の特性を様々な角度から把握し、特別な支援の必要性を見極めて支援の方針を立て、当事者の情報を収集しながら、実態把握に努めることが大切です。また、当事者一人一人による異なるつまずきや、その背景に応じて、適切な指導や必要な支援の方針をもちながら、具体的な指導や支援につなげていくことも重要です。また、地域の関係機関との連携を深めながら、具体的な支援や指導の方策を検討することにより、当事者は、地域の中で理解者の支援を受けながら豊かに暮らすことができると思います。

TBS(R4/8.28)の街頭アンケートで、日々の生活における悩みごとの相談を受けている人は、コロナ禍の影響もあるのか、19.9%でした。8割の人は困った時に相談せず、一人で悩み孤立している状況があります。それはインターネットやSNS等デジタル化社会で孤立を助長しているのではとも報じました。地域の中で身近な人と人の人間関係づくりは大切です。支援者同士も孤立しないで連携・協体制の構築が重要です。私は、地域における本人及び家族へのきめ細かい支援ができる仕組みづくりに微力ながら努力し、共に生きる社会の実現を目指して参りたいと考えます。



教育相談員  
馬籠 裕二

